

ファイル
No.1

生産者の

話を聞いてみよう!

仁田脇義彦(にたわき よしひこ)さん

宮崎市で、マンゴーを30a栽培(さいばい)しています。

平成11年3月に地元で開催された「グリーン博みやざき'99」で、初めて見た国産マンゴーの美しさとおいしさに魅了され、この感動をみんなに伝えたいとの思いから栽培を決意!あれから25年、完熟マンゴー「太陽のタマゴ」を作り続けています。

今年(令和5年)4月に開催されたG7宮崎農業大臣会合では、各国の代表が農園を視察され「おいしい」と評価してもらって大変嬉しかったです。この宮崎から農業の未来へのメッセージを発信できたことを誇りに思います。これからも、環境にも配慮(はいりょ)した方法で、ますます元気に楽しく作っていきたいと思っています。

未来を担うこどもたちにも、直感を信じて、自分が感動して伝えたいことを実現してほしいと願っています。



写真上：仁田脇さん
写真下：完熟マンゴーの収穫前



写真下：G7宮崎農業大臣会合での様子



まふ・
ショー
の一言



5月25日は「マンゴー食べてにっこり」で「みやざきマンゴーの日」。糖度15度以上、重さ350g以上で色と形が美しい最高級品を「太陽のタマゴ」と言います。宮崎完熟マンゴー「太陽のタマゴ」は、誕生から25周年!空港や駅でイベントが開催(かいさい)されました。

トマトのことなら
誰より知ってる
トマト研究家です。

小川 紘未(おがわ ひろみ)さん

小林市で、ミニトマトを14a栽培しています。

ミニトマトの品種は色々ありますが、主にアイコ、ラブリーさくら、オレンジアイコを作っています。

夫婦とも東京でシステムエンジニアをしていましたが、2008年から夫のふるさとに移住し農業を始めて16年になります。販売先は、主に東京などの飲食店や個人(家庭)です。

「トマトを通して食卓を豊かに!」の思いで、消費者の共感と支持を大切にしながら、小規模でも強い経営を目指しています。

G7宮崎農業大臣会合の展示に参加でき、農業をしていて良かったと心から思いました。これからも自分の経営だけでなく、地域のこともサポートしながら生産していきます。

わたしは、ワクワクするような好きなこと(農業)に出会えて楽しく続けられています。

みなさんもワクワクする未来を選択してくださいね。



写真上：小川さん
写真下：ご夫婦での栽培風景とミニトマト(アイコ)



G7宮崎農業大臣会合での展示の様子



生産者の

ファイル
No.3

話を聞いてみよう!

田邊 貴紀(たなべ たかのり)さん

高千穂町で、子牛を約9か月育てて子牛市場に出荷しています。

初めは、牛10頭からスタートし、今では約100頭になりました。

最近は、スマートフォンを使って、子牛が生まれる時期を事前に教えてくれるシステムを活用し、子牛の出産にともなう事故を防止したり、夜間の見回り作業を減らすことができました。

去年は、5年ごとに開催される全国規模の和牛の品評会(全国和牛能力共進会 別名:和牛のオリンピック)に出場し、地域の仲間とともに1位を獲得しました。

これからも、畜産技術の向上や、地域の発展に貢献(こうけん)したいと考えています。



写真上: 田邊さん

写真下: 全国和牛能力共進会出場の様子



宮崎牛は、「和牛のオリンピック」と言われる全国和牛能力共進会において、第9回から第12回にかけて、史上初めて内閣総理大臣賞を4大会連続受賞しています。



牛の耳には、黄色い耳標(じひょう)がついています。

耳標には、10ケタの数字(個体識別番号)が表示されていて、お肉になってみなさんの口にはいるまで、管理されているんだよ。個体識別番号を調べると、その牛が生まれた日や、種別(黒毛和種など)、飼育地などがわかります。